

# 知床世界自然遺産地域 適正利用・エコツーリズム検討会議

## カムイワッカ部会（第9回）

### 議事録

【日時】 平成29年2月13日（月） 14:00～16:00

【場所】 斜里町産業会館 大ホール

#### 【議題】

- (1) 平成28年度カムイワッカ地区の利用状況について
- (2) 平成29年度以降のマイカー規制期間の設定について
- (3) 平成29年度硫黄山登山道特例使用期間の設定について
- (4) その他

#### 【会議資料】

- 資料1-1 平成28年度モニタリング調査の結果について
  - 資料1-2 平成28年度カムイワッカ地区来訪者数の推定について
  - 資料2-1 平成29年度以降3カ年のカムイワッカ地区における混雑状況予測
  - 資料2-2 平成29年～平成31年のマイカー規制期間について（事務局案）
  - 資料3 硫黄山登山道の利用状況について
- 
- 参考資料1 カムイワッカ部会（第8回）議事録
  - 参考資料2 平成28年度 硫黄山特例使用集計

**【出席者】**

以下、一覧の通り。

機関名	職名	氏名
<b>【専門家】</b>		
北海道大学大学院農学研究員	准教授	愛甲 哲也
<b>【地域関係団体】</b>		
知床自然保護協会	理事	遠山 和雄
斜里山岳会		<欠席>
北見地区バス協会、斜里バス株式会社		下山 誠
特定非営利活動法人 知床斜里町観光協会	専務理事	代田 克雄
知床斜里町観光協会ウトロ部会	会長	松田 光輝
羅臼山岳会	会長	佐々木 泰幹
知床温泉旅館協同組合		<欠席>
知床民宿協会	会長	松田 賢一
ウトロ自治会	会長	桑島 繁行
株式会社ユートピア知床	社長	上野山 文男
知床ガイド協議会		岡崎 義昭
北見地区ハイヤー協会		<欠席>
一般財団法人 自然公園財団 知床支部		<欠席>
<b>【関係行政機関】</b>		
オホーツク総合振興局 網走建設管理部 維持管理課	課長	藤田 博康
オホーツク総合振興局 網走建設管理部 維持管理課	主査 (道路管理)	門間 博幸
オホーツク総合振興局 網走建設管理部 道路課	主査 (道路)	菊谷 宏
オホーツク総合振興局 網走建設管理部 斜里出張所	所長	中山 康明
オホーツク総合振興局 網走建設管理部 斜里出張所	主査 (管理調整)	松原 伸嗣
オホーツク総合振興局 環境生活課	主幹 (知床遺産)	石井 弘之
北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター		<欠席>
北海道森林管理局 網走南部森林管理署	総括地域林政調整官	岩本 智行
北海道開発局 網走開発建設部 技術管理課	課長補佐	平 吉昭
北海道運輸局 北見運輸支局	首席運輸企画専門官	久原 賢一
北海道警察斜里警察署 地域・交通課	課長	山田 晋矢
斜里町役場 総務部 環境課	課長	茂木 公司
斜里町役場 総務部 環境課 自然環境係	係長	玉置 創司
斜里町役場 産業部 商工観光課		<欠席>

環境省ウトロ自然保護官事務所	自然保護官	前田 尚大
環境省ウトロ自然保護官事務所	自然保護官	西田 樹生
公益財団法人 知床財団	事務局次長	寺山 元
公益財団法人 知床財団 公園事業係	係長	秋葉 圭太
<b>【運営補助】</b>		
公益財団法人 知床財団 公園事業係	参事	新藤 薫
公益財団法人 知床財団 公園事業係	主任	佐々木 達也
公益財団法人 知床財団 公園事業係		江口 順子

### 【開会挨拶】

斜里町（茂木）：適正利用・エコツーリズム検討会議の第9回カムイワッカ部会の開催に当たり、予想以上の積雪の中、ご参集いただき感謝申し上げます。科学委員会委員、適正利用・エコツーリズム検討会議委員で北大の准教授である愛甲氏にもご参加いただいている。本日の議題は3つ、会議は2時間を予定しており、早速議事に入らせていただく。

環境省（前田）：資料確認をさせていただく。（順次読み上げ。）また、最後の参考資料2「平成28年度 硫黄山特例使用集計」については、議事次第の「配布資料」の項に記載がされていないので、補記をお願いしたい。

### 【議 事】

#### 資料1-1について知床財団（秋葉）が内容を説明

- ✓ カムイワッカ地区の混雑状況予測に必要な基礎データとして、カムイワッカ地区及び知床五湖園地における①滞在時間等調査、②選択率等調査の結果を取りまとめたものが、資料1-1である。
- ✓ カムイワッカ地区の滞在時間は、20～40分が最も多く、知床五湖の滞在時間は30～90分が最も多い結果となった。
- ✓ 知床五湖の滞在時間は、ヒグマ活動期より植生保護期が若干長い傾向が読み取れるが、10分程度から5時間超までとバラつきがある。
- ✓ カムイワッカと知床五湖の各駐車場で、普通車両1台当たりの乗車人数を調べた結果、それぞれ2.23人、2.40人となった。降車人数をすべてカウントできないこともあったため、数値は若干少なめである可能性がある。
- ✓ カムイワッカ地区における、湯の沢内への入渓率は9割となった。残る1割は橋上での写真撮影などにとどまったと考えられ、滞在時間は入渓した人が30～40分なのに対し、入渓しなかった人は10～20分と短い。
- ✓ 利用者の行動パターンとしては、ウトロ地区から知床五湖の往復利用が最も多く65%、ウトロから直接カムイワッカ往復が14%、知床五湖経由カムイワッカ地区訪問が6%、カムイワッカ地区経由知床五湖訪問が15%という結果になっている。
- ✓ 各種調査の結果を踏まえて、従来利用者数推定のために使用していた係数との比較を行った。平均乗車人数は2.485人であったが、カムイワッカは2.23人に、知床五湖は2.40人とそれぞれ減少した。カムイワッカ地区の平均滞在時間は30分から26分に、カムイワッカ地区の選択率は50%から41.4%に、いずれも減少する結果となった。

#### 資料1-2について環境省（前田）が内容を説明

- ✓ カムイワッカ地区の来訪者数について、過去からの推移を取りまとめたものが資料1-2①である。前回会議でもほぼ同じ資料を提示したが、前回会議が10月のシーズン中で

あったため、今回シーズン終了（道路閉鎖）までのデータを加味したものとなっている。また、平成 28 年については資料 1-1 で説明した新たな係数を用いたものを新たに記載している。なお、前回会議で提示した資料中、平成 28 年のシャトルバス利用者を 6,765 人としていたが、事務局の集計ミスがあったことから、今回 7,677 人に修正した。

- ✓ 平成 28 年に関しては、新係数で算出した数値（35,588 人）が従来係数で算出した数値（45,597 人）より概ね 1 万人少なくなった。
- ✓ 平成 28 年が前年より減少した理由としては、8 月の台風の影響のほか、新たな係数を用いたことによると思われる。
- ✓ 資料 1-2②では、平成 28 年の 7～9 月のカムイワッカ来訪者数を、五湖駐車場の駐車台数から従来係数を用いて推定したものと新係数を用いて推定したものをグラフに表した。

斜里町（茂木）：愛甲委員からコメントを承りたいと思うが、いかがか。

愛甲：詳細な調査をしていただき、私もデータを見せていただいた。過去 3 年間ににおいては、知床五湖駐車場の拡張など、社会環境の変化があり、来訪者の行動も変化している可能性があるため、再調査の必要性を指摘してきたところである。カムイワッカ地区の来訪者数の推定方法としては、知床五湖の駐車台数から推定する手法と、現地に設置した赤外線カウンターから推定する手法の 2 通りが考えられる。カウンター数値から来訪者数を推定しても、従来係数で推定した来訪者数との開きは大きく、従来係数では過大評価をしていた可能性は高い。新係数で推定した場合は、カウンター数値での推定と概ね近似していることから、新係数は概ね的を射ていると考えられる。ただし、150 数日あるシーズン中、滞在時間等調査は 4 日間、選択率等調査についてはわずか 2 日間の調査であるので、係数の信頼性については充分とはいえない。もう少し同様の調査を継続する必要があるかと考えている。

斜里町（茂木）：では、資料 1-1 および 1-2 について質疑応答に移りたい。

知床斜里町観光協会（代田）：資料 1-2①の説明で、新係数を用いるとカムイワッカにおけるマイカーの台数は減少したということだが、五湖の駐車台数がベースになっているとのことなので、五湖の駐車台数はどうなったのか教えていただきたい。聞いたところでは、五湖駐車場ではツアーのバスがだいぶ減ったということだった。この調査では乗用車の台数をカウントしているが、総台数はどうだったのか。

環境省（前田）：本日はあいにく自然公園財団の方がご欠席なので、代わってお答え申し上げます。今ご指摘のように、五湖駐車場においては大型のバスが減少したと聞いている。資料 1-2①の表の「マイカー利用者」という部分を見ていただくと、従来係数を用いて算

出すと、昨年より高い数値が出ている。つまり、同じ計算方法であれば増加したということだ。これはあくまでマイカー規制期間外の駐車台数から割り出したものだが、その期間については乗用車は伸びている。ただ、マイカー規制期間は含まれていないということは、台風が来た際のデータは抜けているということの意味し、台風が来た間の数字は小さかったと思われるため、全体としての評価は把握できていない。

**編集注:平成 28 年度の知床五湖駐車場の駐車台数は、総計 61,547 台で平成 27 年度比 90%の実績。うち、大型バスは 3,814 台で平成 27 年度比 85%と減少幅が大きかった。**

斜里町（茂木）：議題（1）についてまとめる。平成 28 年の数値は新たな係数を用いていること、次年度以降もこの新たな係数を用いること、ただし、愛甲氏のコメントにもあったように、適用係数については、今後の調査結果を踏まえ必要に応じ見直しをしていくということによろしいか。ほかに質問がないなら、次の議題に進ませていただく。

#### 資料 2-1①及び資料 2-1②について環境省（前田）が説明

- ✓ 平成 29 年度以降のマイカー規制期間を決めるために、7～9 月の混雑状況の予測を示したものが資料 2-1①、平成 23 年からの 8～9 月の知床五湖における駐車台数の推移を示したものが資料 2-1②である。資料 2-1①は新係数と従来係数の 2 通りを掲載、資料 2-2 は新係数を採用した数値で作成している。
- ✓ カムイワッカ湯の滝前の駐車スペースは 20 台収容できるという計算で、且つ約 30 分で 1 回入れ替わることから、1 時間当たり 40 台が駐車可能と想定し、資料 2-1①では予測数値が 40 を超える日について欄の色を赤もしくは黄とした。
- ✓ 9 月の連休を見てみると、平成 29 年度は三連休が 1 回、30 及び 31 年度は 2 回あり、駐車可能台数を超す日が発生する予測となっている。
- ✓ 7 月について見てみると、海の日三連休に駐車可能台数を超す日が発生する予測となっているが、それ以外の日についてはさほどの混雑はないとの予測になった。
- ✓ 8 月については、平成 29 及び 30 年度については、お盆時期に混雑が予想される。平成 31 年度はさほどの混雑はないとの結果である。
- ✓ 上記はあくまで予測であり、この通りに行くというものではない。今後の方針を決める参考資料としてお示しした。

#### 資料 2-2 について環境省（前田）が説明

- ✓ 平成 29～31 年のマイカー規制期間の設定について、環境省釧路自然環境事務所、北海道オホーツク総合振興局、斜里町環境課の三者からの提案が資料 2-2 である。
- ✓ 設定に当たっての基本方針は、平成 25 年設定時のものを踏襲する。
- ✓ 車両規制にかかる基本事項も従来と変わらない。
- ✓ 平成 29 年度以降のマイカー規制を導入する目安としては、1 日あたりのカムイワッカ利用車両台数が 192～239 台という前提条件とした。

- ✓ これらから、平成 29～31 年度のマイカー規制期間として 8 月 1 日から 25 日の 25 日間を提案する。9 月は、平成 29～31 年度は 3 日を超える連休がないことなどに鑑み、マイカー規制なしとする。
- ✓ 但し、最終決定は前年度の部会において決定することとし、平成 32 年以降 9 月に大型連休が発生する年については、再度マイカー規制設定を検討する。

斜里町（茂木）：平成 29 年から続く 3 年間は、8 月 1 日から 25 日までという規制期間を基本としつつ、最終決定は前年度の部会において行う、ということである。いずれにしる、平成 29 年度についてはマイカー規制の期間を今日この場で決定したい。これについて、ご意見ご質問等を承る。

愛甲：資料 2-1①を見た際に、平成 31 年の 8 月が気になる。もとになっている数値は、9 月の祝日が同じ並びの別な年のもの使用しており、それは曜日の並びや連休の並びを考慮してのことで、さらに下の補足に「7 月は平成 28 年の五湖駐車台数を引用した」とある。気になるのは、平成 31 年については、もとにしている平成 25 年の 8 月のお盆時期の車両台数がこの時期にしては少ないと感じる点だ。それが荒天などが理由だとすると、これを基礎として算出すると低めに出てしまうのではないか。資料 2-1②を見ると、平成 25 年 8 月は前年より 1,000 台以上少ない。それによって、欄の色が赤ではなく黄になっているのだとは考えられないか。算出の基礎をどこに据えるかによって、予測結果がだいぶ違ってきてしまうのではないかと懸念する。

また、資料 2-2 で、2 ページ目の最後、「7 月の三連休等の局所的に混雑が予想される日については、利用円滑のための対策を実施する」とあるが、これは 9 月についても必要ではないか。平成 29 年は（9 月の）三連休が 1 回なのでよいとしても、平成 30・31 年は 2 回あるので、9 月についてもなんらかの記載をしておき、対策を講じることが必要ではないか、という気がする。次の 3 年、つまり平成 32 年から 34 年のことを考えると、9 月にどのくらいの入り込みがあるか、今から把握しておく必要があるのではないか。以上の点が気になった。

環境省（前田）：9 月のマイカー規制をなくした場合、混雑状況を緩和するために、7 月同様になんらかの対策が必要ではないかという点と、9 月について入り込み状況の把握が必要ではないかという点の、二点をご指摘いただいた。一点目については、7 月の連休に比して 9 月はより少なめの数字が出ているが、三連休には状況を見て対策の必要性の有無と、どういう対策がとれるかなどについて検討したい。恐らくは、各関係機関にご協力いただくことになると思うので、ご意見等あれば伺いたい。二点目については、事務局内でも、今の予測が必ずしも現実を指示しているわけではない、確度には限界があるとの認識であり、今後、継続的なモニタリングが必要だろうという意見は出ている。どういう形で実現させるかは今後の検討であるが、出来るだけ低コストで且つ持続的に実施

できる形を模索したい。

愛甲：これら二点は実は関係している事柄で、対策といった場合に人手もコストもかかる話である。私自身、7月は何回か立ち合わせていただいたが、現場は大変苦勞されていると感じた。同様のことを果たして9月にも行うのか、行わなくてよいのか、それを判断するためにも、継続的な把握が必要だろう。これで行くと多分9月17日が、予測に反して混みあうのではないかと思う。平成32年以降にそういう大変な思いをしないために、継続的な状況の把握が求められると考える。

知床財団（秋葉）：今年、実際に調査を実施した感覚を踏まえて申し上げる。4日間、出来るだけ平日と週末というように、ばらけさせて調査を行ったが、天候その他で利用の動態は変わるというのが実感だ。この4日間のデータは、それなりに外してはいないと思うものの、これが全てというわけではもちろんない。調査の時期や曜日などについてより工夫しつつ、確度の向上のためにも継続実施をすべきと思う。9月（の三連休）については、何らかの手当てが必要だと考える。この時期は現地監視員を1名配置しているが、現地配置人員は年々減ってきており、交通整理から湯の沢の監視まで繁忙期は特に大変だという声を聞いている。9月のマイカー規制がなくなるということならば、混雑が予想される日については、なんらかの現地サポート体制を考えなくてはいけないだろう。もう一点、8月25日までをマイカー規制期間とするということだが、3年を通じて同じ日で区切るのは、分かりやすさの点ではよいと考える。ただ、平成29年は8月25日が金曜に当たり、規制期間終了後に週末となること、規制を避けて規制期間終了後に来訪する人が実際に少なからずいること、この二つが重なる点について、どうお考えか伺いたい。

環境省（前田）：8月のこの時期、道内からの旅行者は土日に関係してくるかもしれないが、道外あるいは海外からの旅行者については、あまり土日は関係しないのではないかと考えている。曜日についても検討はしたが、ひとまず平成29年については8月25日で区切らせていただいた。また、規制を嫌って期間終了後に来られる方もおいでだろうが、まずはモニタリングを通じて状況の把握を行い、何らかの手当てが可能かどうか、先ほど示された現地管理員の配置などと併せ、検討していきたい。

斜里町（茂木）：ほかに質問等あれば承る。

知床斜里町観光協会（代田）：カムイワッカ川左岸の擁壁工事のスケジュールを教えていただきたい。今年のマイカー規制には（工事期間が）重なるのだったか。

網走建設管理部（菊谷）：平成28年度でカルバート関係の工事は完了した。擁壁工事につ



いては、設計は終わったのだが、もっと違った工法があるのではないかとということで、森林管理署とも話し合っているところである。今の状況だと、平成 32 年度くらいまで工事はかかりそうだ。

斜里町（茂木）：ほかにご質問はあるか。ないようなので、議題（2）について協議結果を総括する。平成 29 年から 31 年のマイカー規制期間は基本的には 8 月 1 日から 25 日、9 月は規制なし。平成 29 年についてはこの日付で決定とし、30 年及び 31 年については、8 月 1 日から 25 日までを基本としつつも、従前通りそれぞれの前年の状況を踏まえてこの部会で決定する。一方で、懸念として示された 9 月の三連休の混雑状況予測については、出来るだけ確度を挙げていく努力を検討する。仮に、今の案のまま 9 月はマイカー規制を行わない、しかし混雑が予想されるとなった場合には、関係機関で出役するなど対応を検討する。以上でご異議がないか。特にご異議なしということで、次の議題に進む。

#### 参考資料 2 について網走建設管理部（門間）が説明

- ✓ 前回会議の際の要望に沿って、特例使用申請数を属性ごとにまとめたものが参考資料 2 である。
- ✓ 平成 28 年度の道道特例使用承認申請数は 293 件 653 名となっている。
- ✓ 申請者を居住地ごとに取りまとめたが、裏面下部の「空白」という欄の数字は、書かれているが不鮮明で解読不能なもの、外国であることは分かるがどこの国か不明なものなども含まれている。

斜里町（茂木）：前回部会でこのデータをご提示いただきたいという要望があり、それにこたえていただいた形である。これについて、ご質問、ご意見を承りたい。

知床自然保護協会（遠山）：平成 28 年の道道特例使用承認申請数は 653 名というのが公式の数字ということでよいか。ほかの、例えば道が把握している数字は違うというようなことはないのか。あったとして、この部会では 653 という数字を採用するというのか。

網走建設管理部（門間）：網走建設管理部で取りまとめている数字としては、653 になる。

斜里町（茂木）：資料 3 と参考資料 2 では数字が異なるようだが。

環境省（前田）：資料 3 はカウンターが示す数値から求めたもので、参考資料 2 は申請があった数、申請書に書かれた人数となっている。全く別のデータということだ。遠山氏のご質問だが、申請した人の数ということだと、網走建設管理部しか取りまとめていないので、この 653 というのがこの部会としても採用する数字になると思う。ただ、実際に

登っている人の数というのは、正確には把握できない。

知床自然保護協会（遠山）：羅臼岳登山道維持管理部会でも同じ資料が示されていたと記憶するが、カウンターの数値と申請数では、こんなにも開きがあるものなのか。

網走建設管理部（門間）：予約のようなものでもあるので、申請したが結局登らなかったというケースは少なくないようだ。我々の示す数値が絶対だということでもないし、カウンターに誤りがあるということでもないと思っている。

斜里町（茂木）：必ずしも実際に（登山道を）利用した人の数を示すものではないという点は、ご理解いただきたい。その他、質問などあれば受け付けたいがいかがか。

知床財団（寺山）：データのご提示に御礼申し上げます。数値がこんなに違うのかという遠山氏のご意見だが、カウンター計測による登山者数は、例年 700 から 800 で推移しており、今年の 462 という数字はかなり少ない。実際のところは分からないが、これが 8 月の台風による道路閉鎖の影響だと考えると、事前申請したが行けなかったということで、申請数も無難な数字のように思える。また、メールの件数をお示しいただいたのは、大変助かる。約半分がメールで申請がきているという情報は、参考になる。ところで、振興局ごとに集計を示していただいているが、申請の窓口は網走建設管理部だけという理解でよいか。それとも各振興局に受付窓口があるのか。

網走建設管理部（門間）：その理解でよい。オホーツク総合振興局のサイトにしか載せていない。

斜里町（茂木）：ほかに質問はあるか。なければ資料 3 の説明をお願いしたい。

#### 資料 3 について環境省（前田）が説明

- ✓ 資料 3 は、岩尾別・硫黄山・湯ノ沢に設置したカウンターの計測結果に基づき知床連山の登山道利用者数を示したもの。硫黄山の下山者数は 432 となっており、参考資料 2 で示された道道特例使用承認申請者数 653 より 200 近く少ない数字となっている。
- ✓ 平成 27 年はカウンターでは 720 という数字が出ているが、特例使用承認申請は 836 人であり、申請の方が実際の下山者より多い。申請したが来なかった、登らなかったという人が毎年一定数いるのだと思われる。今年は悪天候の影響で、その数が例年より多かったことが考えられる。
- ✓ 今回の資料でお示しした数値は速報値であり、今後精査をして、若干増える可能性があることを申し添える。

斜里町（茂木）：資料3について質問等はあるか。ないようなので、次に進む。議題3になるが、平成29年度の硫黄山登山道の特例使用期間の設定についてである。まずは網走建設管理部からご提案をお願いしたい。

網走建設管理部（門間）：前々回の会議で終期の規則を決めた。前回、始期も規則化してしまおうということで、いったん持ち帰らせていただき、内部における協議を経て、次の通り提案させていただく。6月第3週の金曜日を始期とする、平成29年で言うと6月16日になるが、これを基礎として今後の始期とすることでいかがか。

斜里町（茂木）：前々回、特例使用の終了は9月の最終週の日曜で固定するということが合意がなされた。開始については6月第3週の金曜という提案をいただいた。年によって、除雪の進行具合などに関係してくるだろうが、特殊な事情がなければこれで固定という考え方では一致している。開始を土曜にするか金曜にするかだが、前回部会で土曜にすると行政が閉じている（休日である）ので、開始時の不具合があった際に巧く対処・対応ができないのでは、ということで、金曜日という意見があり、ご検討いただいた結果、金曜日でご提案いただいた。これでよろしいか。ご異議がないようなので、少なくとも平成29年については6月16日から開始ということで決定、今後シーズンに向けて周知していくこととする。

知床自然保護協会（遠山）：今年は9月24日の日曜日で閉まる、開始は特段の事情がなければ6月16日の金曜日、それでよいと考える。

斜里町（茂木）：ではこれで決定とし、次の議題「その他」に移る。何かあるか。

知床財団（秋葉）：日程はこれで決定ということで、今後、広報など準備に移行するわけだが、マイカー規制をしてシャトルバスを運行することには、道路上でのヒグマ遭遇や交通事故が回避できるなど多くのメリットがある。マイカー規制をなくす期間については、できるだけデメリットが出ないように、準備すべきと考えている。広報については、これから準備を始めるわけだが、今後の予定で決まっているものがあれば教えていただきたいのと、もう一点、外国人が増えている中、マイカー規制を含むカムイワッカの案内などについて英語でまとまっているものが今現在ない状態だ。制度が分かりやすくなった部分もあり、地域としても積極的に広報していきたい思いはあろう。今後の広報の予定について教えていただきたい。

環境省（前田）：今後のスケジュールについては、例年と特に大きく変えるつもりはない。具体的には、3～4月頃から日本語のチラシの作製を開始する。Web上、環境省の知床五湖のホームページには、4月頃に掲載が可能になると思う。印刷は道庁をお願いしており、

例年通りなら6月頃だろう。早め早めを心掛けたいが、概ねそのようなスケジュールで考えている。次に多言語化の話であるが、ご指摘の通りカムイワッカの利用については現時点で全く英訳がされておらず、現場の皆さんにはご苦勞をおかけしていることと思う。具体的なビジョンは特に今は持ち合わせていないのだが、単純に英訳すればよいのか、ほかに盛り込むべき情報があるのかなど、逆に現場のご意見、ご助言を承りたいが、いかがか。他の行政機関からも補足があるようならお願いしたい。

斜里町（茂木）：補足はないようだ。ほかにあるか。

知床斜里町観光協会ウトロ部会（松田）：今後、欧米系の方の来訪が増えると思われる。彼らからは、ロングトレイルを歩きたいという要望が示されている。知床ではロングトレイルと言えば縦走路になるので、外国人向けの情報発信に取り組むにあたっては、登山情報も含めたものをお願いしたい。ルールのお知らせも同様である。もう一点、最近ではキャンピングカーや、普通車ではない中型車などで知床を訪れる旅行者が増えている。道道知床公園線の五湖ゲート以奥は中型車以上は通行禁止となっている。湯の滝前の駐車スペースに（普通車以外の車両を）停めさせるのは難しいとは思いますが、湯の滝500m手前の旋回スペースに停めさせることは可能ではないか。普通車以外の車両で長期に旅行を楽しむ方が増えている中、より知床を楽しんでいただくためにも何らかの工夫ができないか、検討をお願いしたい。

環境省（前田）：一点目、連山縦走路については情報発信の重要性は認識している。ちょうど今年度から知床財団が外国人旅行者向けの情報発信の取り組みを開始しており、サイトを立ち上げている。こちらをご紹介いただけないか。

知床財団（寺山）：知床に到着した後の旅行者に対して情報提供の強化に取り組んでいる。特に外国人に対する情報発信は、ここにおいで各位にも、共通の課題であるとの認識を共有していただけていると思っている。昨年、知床財団では「知床情報玉手箱」というスマートフォン向けのサイトを立ち上げ、和英両方の言語で基本的な情報を提供している。その中には「週刊登山道情報」として登山道の情報も含まれており、週1回の更新を目指して昨シーズンとりあえず運用した。アクセス件数は今後ウォッチしていき、それを踏まえてより良いものにしていくつもりだが、今現在困っているのは、英語でのしかるべきリンク先がないという点だ。登山道の整備に関する会議の場でもお願いしたところであるが、例えば携帯トイレは環境省も推奨し普及を進めているところであるにもかかわらず、携帯トイレとはどういうもので、どういう使い方をするのか、といった情報は日本語しかない状況だ。行政によってオーソライズされたサイトがあって、そこにリンクするのがベストだと思うのだが、そういった英語サイトがない。今回の登山道の特例使用などについても、情報がおおむね整理されたので、一度英語できちんと「こ

ういう制度がある」ということを整えてしまえば、それなりに長く使えるだろう。今現在（登山道が）開いている、開いていないということは最新情報として「知床情報玉手箱」で提供していくようにすれば、巧く機能するのではないか。旅行者にとっての情報の入り口は我々知床財団の方で整えるので、各行政機関でリンク可能な英文サイトを整えていただくよう、お願いしたい。

斜里町（茂木）：松田氏にとって、一点目は以上の説明でよろしいか。

斜里町観光協会ウトロ部会（松田）：検討を進めていただければそれでよい。すべてを一度にとというのは、なかなか難しいことは承知している。

斜里町（茂木）：横断的になる部分もあろうかと思う。外国人旅行者向け情報発信に関する部会を立ち上げていることでもあり、そちらで議論すべき事柄もあるだろうし、カムイワッカについて論じる場で解決に向けて動くべきこともあるだろう。それぞれに関して引き続き検討していくということだろう。二点目、普通車以外の車両、中型車やキャンピングカーなどの通行については、いかがか。

環境省（前田）：中型車やキャンピングカーを入れられないかということであるが、7月に交通整理に当たっていた際に、実際のところ通行禁止であることを知らずに中型車やキャンピングカーが入ってくるという状況があった。もともと駐車容量が小さいなかで大型の車両を停めるところがないことが問題であり、湯の滝の前の駐車スペースが無理なら、500m手前の旋回スペースをとというご意見もあったが、そこも登山者向けの駐車スペースとして用いていることでもあり、混雑していないときであれば話は別だが、なかなかすぐにはこのようにすればいいという提案はできない状況だ。道路管理者の方や警察の方からもご意見を承りたい。

斜里警察署（山田）：あの道路状況でもあり、実際に事故は起こっていること、未舗装道路に慣れた人ばかりではないことなどを考えると、そこに中型以上のサイズの車両が入ることで、事故の危険性は増すと思われる。今後、道路の整備が進むなら別だが、今すぐにとすることは考えにくい。

網走建設管理部（藤田）：今、警察署から道路の整備というお話があった。具体的には拡幅ということになるだろうが、地域性や環境に鑑みて実現は難しい。現状のまま中型以上の車両を入れることは難しいだろう。

斜里町（茂木）：かねてより、中型車以上も入れるようにならないか、あるいは未舗装を舗装にという要望はあった。しかし、今すぐにどうにかなるものでもないという現状に変

わりはないだろう。具体的に現場においてどう対処するか、今のところはそれが最善の策かと思う。個別の事柄について、それぞれの関係機関に対応をお願いするという事ではないか。

知床斜里町観光協会ウトロ部会（松田）：今すぐに具体的に何かするというのが無理というのは重々承知しており、また拡幅してもらいたいという意味でもない。ただ、従来、あそこは道路としては大型バスも通っていた。一定のルールのもと、何か検討できないかという意味で発言した。また、旅行者が減る、海外からの旅行者が増えるなど、旅行者の構成や旅行の形態も変わっていくだろう。10年20年先を見越して、どういう旅行者にどんな旅行を楽しんでもらうか、そういったことを考えて議論していったらどうか、と思ってる意見である。

斜里町（茂木）：この部会での議論とは別に、例えばどういう道路にしていくのかなど、管理者や執行者としてのお考えはあるだろう。状況に応じて議論する、議論を踏まえて地域としてお願いすべきはする、とはいえ安全性が最優先といったところかと思う。その他、ご意見ご質問はあるか。

愛甲：外国人の話題が出たので、一昨日から開始した外国人を対象としたアンケートについて経過と所感を簡単にご報告しておく。まず、外国からの旅行者は日本人以上に公共交通手段に依存していること、また、日本人とは異なり、必ずしも週末に訪問する人が多いわけではないということなどが分かってきている。従って、日本人とは違う対応が求められると考えられる。例えば、マイカー規制に関する情報を速く正確に伝えていくことのほかに、現地でどういう情報を得てから知床に来ているのか、何を期待して来ているのか、といったことの把握が必要だ。古い情報や、間違った情報が長く掲載されたままになっていることによるトラブルも考えられるため、どのような情報が（英語などで）出回っているかなど、現地へ来てからのギャップなどをチェックしていくことも必要になってくるだろう。

斜里町（茂木）：知床が外国語で外国人に向けてどのように紹介されているかは、非常に興味のあるところである。今後、そうしたことも情報収集や検証が必要になってくるのご意見であった。

知床斜里町観光協会ウトロ部会（松田）：外国人旅行者の20%ほどが使っている“Lonely Planet”では、五湖の利用調整地区制度については概ね正しく紹介されている。しかし、登山道については記憶が曖昧だが、確か掲載されていた。マイカー規制については、掲載がなかったように思う。“Lonely Planet”が正しい情報を掲載していれば、他のガイドブックなどもそれに準じた内容を紹介していくと考えられ、そういったガイドブックへ

の情報発信も重要ではないか。

羅臼山岳会（佐々木）：硫黄山登山道の特例使用が6月第3金曜日から9月最終日曜日までと決定したことは、羅臼側にも周知する。ところで知床横断道路についてだが、羅臼側から羅臼岳に入山する、あるいは羅臼湖に行くといった場合に、この時期はどうしても一度ゲートから道路を通過して、翔雲橋あたりまで行ってから山に向かうというルートになる。入り口についてどうしても約1~2kmは国道を使うような形になる。これから3月に入ると除雪が始まり、ゲートのところに業者の人が配置されるため、通りたい、いや通せないということでトラブルになる。ウトロ側では、幌別川から細い道があってそこ経由で一度国道に出て、ということがなされている。今後、バックカントリースキーや、事情を知らない外国人が増える可能性があるならば、どのようなルールにしていくのか真剣に検討していくべきではないか。カムイワッカ部会で話し合うことではないかもしれないが、特例使用ということで考えるなら、同じようになんらかの仕組み作りができないかと思い、発言させていただいた。冬場、熊越えの滝は、多いとは言えないものの一定数の利用がある。中には、公的団体による利用もある。答えは出しづらいかもしれないが、問題提起させていただく。

斜里町（茂木）：このカムイワッカ部会で協議することではなく、なんらかの別な協議の場を設定するということになるかと思うが。

羅臼山岳会（佐々木）：その他の議題ということで、時間も残っているので、また、今日この場には羅臼町から参加しているのが自分だけなので、この場で協議すべき内容ではないと認識したうえで発言させていただいた。今後、単純な観光とは異なる、いわゆる冒険や探検のような利用の仕方、岬へのトレッキングとかバックカントリー利用が増えるならば、早晚協議しなくてはならないのではないかということで、共有させていただいたのだとご理解いただければよい。羅臼山岳会は、世界自然遺産である知床を大いに利用させてもらっている身であるし、決まったことは決まったこととして持ち帰って周知徹底の上で厳守する。今ここで回答を求めての意見ではない。

斜里町（茂木）：了解した。今後の課題としてご提供いただいたということで整理したい。ほかになれば、時間になったので、閉会としたい。本日は活発なご議論に御礼申し上げます。

以上